

第 27 回 医薬品・医療機器等対策部会（平成 27 年 5 月 12 日開催）における  
チャイルドレジスタンス包装容器による防止対策に関する主な意見

- ・ 包装容器を開けにくくすることによる高齢者等、本来の服薬者への影響も重視すべき（アドヒアランスへの影響）。
- ・ 低年齢児では、指や手で押し出すのではなく、かじるという行為が多い。
- ・ 開封行動は色々あり、合理性のある強度基準の設定は容易ではない。
- ・ 消費者安全調査委員会が実施しているパネルテストについては、あくまで一例の素材・形状によるものとなるため、結果は慎重に検討すべき。
- ・ 事故の生起頻度を下げるには、開けにくくすることだけが手段ではなく、子どもが触れるモチベーションを下げる等の設計コントロールも重要。
- ・ 力学的要件からの検討ではなく、開封手順が長い、複合動作の他、容器を苦くするという対策も考えられる。
- ・ 事故発生時のリスクを考えると、危険性の高い薬を優先した対策はどうか。
- ・ 製薬企業ではなく、薬局等の調剤段階で取り組める事項もある。
- ・ 薬局で PTP シートに保護シールを貼るという手段もある。ただし、実際のシートのサイズや強度は多様である。
- ・ チャイルドレジスタンス包装容器の導入に要する費用についての議論も必要ではないか。（社会保障費への影響など）
- ・ 薬価制度のもとでは、製品価格へ反映することが困難であり、最低薬価のものに対する製造設備投資など、産業の実現可能性からの議論も必要。
- ・ 教育、啓発活動について、一層充実を講じていくことが必要。
- ・ 企業も盛んに商品の TVCM をしているが、その最後に誤飲の注意啓発のシーンを混ぜることもできるのではないか。

（抜粋・順不同（複数意見等、趣旨は事務局でまとめています））